

廃棄物削減と再資源化

事業所において排出されるごみの削減・リサイクル

ニチレイグループは、事業所から排出されたごみ(事業所外排出量)のうち、処分場に直接埋め立てられる廃棄物、およびエネルギー利用などがされず単純焼却される廃棄物の量(最終処分廃棄物量)を、2010年度までにゼロにすることを目標に掲げ、事業会社ごとに目標、重点課題を定めて廃棄物削減と再資源化の取り組みを進めています。

2007年度の取り組み結果および今後の方針

各事業会社が設定目標を達成したことにより、最終処分廃棄物量は、627トン(2006年度比54.6%削減)となり、1999年度比では95.5%削減となりました。

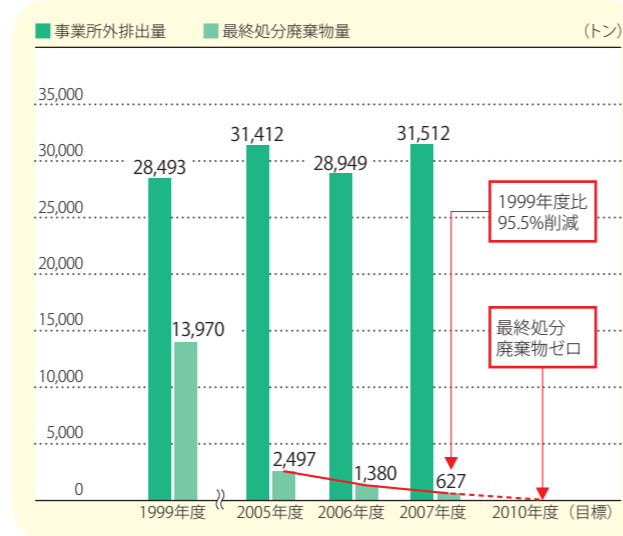
現在、最終処分されている廃棄物には、紙くずなど地域によって事業系一般廃棄物の処理場が単純焼却している場合や、種類や量などによってリサイクル先が見つからない場合などありますが、発生の抑制も含めさらなる削減に取り組んでいきます。

食品廃棄物のリサイクル

食品工場から排出される食品廃棄物については、99%以上がリサイクルされています。

また、ニチレイフーズでは、賞味期限切れなどにより物流の段階で発生する食品廃棄物についても、堆肥化・飼料化やメタン発酵によるリサイクルを進めており、2007年度は、99%をリサイクルしました。

事業所外排出量および最終処分廃棄物量(ニチレイグループ)



事業所外排出量および最終処分廃棄物量の内訳

廃棄物の種類	事業所外排出量 (トン)	最終処分廃棄物量 (トン)
食用油	1,011 (1,851)	0 (8)
動植物性残さ	9,379 (8,928)	116 (4,582)
フロス・余剰汚泥	3,782 (7,747)	2 (3,114)
プラスチック類	1,980 (833)	57 (812)
空缶	304 (346)	2 (54)
紙・段ボール類	9,742 (4,823)	14 (2,756)
木屑	1,134 (1,442)	18 (668)
その他*	4,181 (2,523)	416 (1,976)
合計	31,512 (28,493)	627 (13,970)

()内は1999年度実績
*その他：紙くずなどの一般廃棄物を中心とする雑多な廃棄物

外箱を廃止し、工場に持ち込まれる段ボールを削減

従来、商品包装用のロールフィルムは段ボール箱に入った状態で工場に納入されていました。ニチレイフーズではこの梱包をシュリンク包装に変更し、段ボールの使用量削減に取り組んでいます。

この取り組みでは、配送トラック内の清掃状況のチェックや工場での受け入れ時の検査方法を改良するなど、包装材料メーカーや運送会社にご協力をいただき、確実な品質維持に努めたうえで進めています。

2007年度は(株)ニチレイフーズ 白石工場で8アイテムについて実施し、約2トンの段ボールの使用および廃棄の削減につなげました。今後もこの取り組みを広げていきます。

商品包装用ロールフィルムの梱包の変更



廃食用油を分離して、飼料に再利用

(株)ニチレイフーズ 長崎工場では、かき揚げや春巻などを揚げる際に使用する油から衣のかすを取り除くために、濾材を使用しています。

使用済みの濾材は、油を含んだまま廃棄していましたが、

廃棄前に遠心分離機を使って油を搾り、搾った油を飼料の原料として売却しています。

この取り組みにより、2007年度は32トンの廃棄物削減と油の有効利用につながりました。



物流センターでのプラスチック類の減容

ロジグループの物流センターでは、保管や輸配送時の荷崩れ防止のために使用しているストレッチフィルムなどのプラスチック類が作業過程で廃棄物になります。また、不要となった発泡スチロールの空き箱も多く発生します。これらはそのままでは容積が大きく、保管場所の確保や廃棄のための運送コストの負担がリサイクルの障害になることがあります。

品川物流センターでは、近隣の川崎ファズ物流センターのものも含めて、これらのプラスチックを圧縮・減容したうえでリサイクルしています。



養鶏場で出る鶏ふんの肥料化

ニチレイフレッシュが運営する(株)ニチレイフレッシュファームで発生する鶏ふんは、農場内に設置された最新鋭の高速鶏ふん処理プラントで有機肥料に生まれ変わり、農業用有機肥料として100%土壌に還元されています。

▶P12~13で詳しく紹介しています。